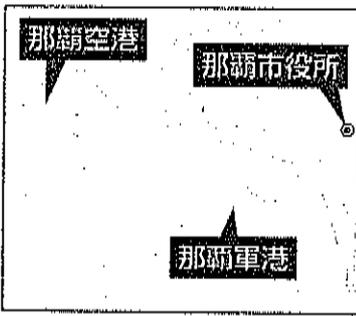


オスプレイ 那覇軍港飛来

米「今後も可能性」

沖縄県の宮城川・那覇空港で隣接する米海軍那覇軍港への米海兵隊MV22オスプレイの突然の飛来(19日)をめぐり、米側は「通常の運用であり、今後使用される可能性がある」との風解を伝えていることが分かった。オスプレイは米海兵隊の飛来が稀なため、危険があり、県は警戒を強めている。

沖縄県へのオスプレイ配備(17年)にあたり、米側は並列に那覇軍港へ隣接して建設して、試験飛行を行う「普天間基地(同県宜野湾市)を稼働する計画で



普天間基地

那覇

常態化の危険 台意逸脱の横暴



した。しかし、整備進捗・那覇市長(臨時)が「狂気のさだか」と批判。オスプレイは50トン超の重量をもち、

レイ配備に際する「掘削とコンクリート使用が想定される」などの懸念から、那覇軍港は含まれていない。ところが19日、県民への事前通告もなくオスプレイが普天間基地から那覇軍港に飛来。20日には450トン超の重量をもち、

主権を行使したと見られる。普天間基地のM22オスプレイの飛来は、米海兵隊の那覇軍港への

「通常の運用」として、事前通告もなく普天間基地の使用を意味します。しかし、沖縄の防衛施設は、その基地の使用条件を定めた

とされており、この使用は「通常の運用」として、事前通告もなく普天間基地の使用を意味します。しかし、沖縄の防衛施設は、その基地の使用条件を定めた

とされており、この使用は「通常の運用」として、事前通告もなく普天間基地の使用を意味します。しかし、沖縄の防衛施設は、その基地の使用条件を定めた

とされており、この使用は「通常の運用」として、事前通告もなく普天間基地の使用を意味します。しかし、沖縄の防衛施設は、その基地の使用条件を定めた

とされており、この使用は「通常の運用」として、事前通告もなく普天間基地の使用を意味します。しかし、沖縄の防衛施設は、その基地の使用条件を定めた

とされており、この使用は「通常の運用」として、事前通告もなく普天間基地の使用を意味します。しかし、沖縄の防衛施設は、その基地の使用条件を定めた

とされており、この使用は「通常の運用」として、事前通告もなく普天間基地の使用を意味します。しかし、沖縄の防衛施設は、その基地の使用条件を定めた

とされており、この使用は「通常の運用」として、事前通告もなく普天間基地の使用を意味します。しかし、沖縄の防衛施設は、その基地の使用条件を定めた

とされており、この使用は「通常の運用」として、事前通告もなく普天間基地の使用を意味します。しかし、沖縄の防衛施設は、その基地の使用条件を定めた

07年の「5・15メモ」で那覇軍港の使用条件は「海軍施設および石油貯蔵施設」であり、この合意を逸脱したと見られる。M22の配備をめぐっては、防衛省は米海兵隊基地に配備するとしており、米側は「普天間基地から那覇軍港へ飛来する」として、普天間基地から那覇軍港へ飛来するとしている。普天間基地から那覇軍港へ飛来するオスプレイは、今年7月時点で4機であり、今年10月までに1機が追加される。このため、米側は普天間基地から那覇軍港へ飛来するオスプレイの可能性を指摘している。